

# 愛知県における中高一貫教育制度の導入について（第一次導入候補校を中心に）

参 考 1

## 1 中高一貫教育導入のねらい

- グローバル化の進展やA I（人工知能）の発達による自動化など、社会は加速度的に変化しており、**将来の予測が難しい社会**となっている。
- **様々な人々と協働しながら、答えのない社会的な課題**に対して、**失敗を恐れずにチャレンジし、創造的に解決する**

### 「チェンジ・メーカー」

として、これからの愛知・日本・世界を切り拓き、支える人材の育成が求められている。

- 新学習指導要領では、自ら課題を立て、情報を整理・分析し、自分の考えを表現する「**探究学習**」が重視されている。

「探究学習を重視した中高一貫教育」を導入

### 入学時の生徒のイメージ

- ・ 色々なことに興味をもって意欲的に取り組もうとする生徒
- ・ 最後まであきらめず粘り強く挑戦しようとする生徒
- ・ 他の人を思いやることができる生徒 など

### 将来に思い描く自分のイメージ

- ・ みんなの生活を良くするため、新しい技術を生み出そうとする人
- ・ 医療に恵まれない地域で病気に苦しんでいる人たちを助けようとする人
- ・ 人口減少地域の人たちが、安心して暮らせる仕組みをつくらうとする人
- ・ グローバル化や技術革新にあわせて経済の仕組みを変えていこうとする人
- ・ 環境問題や貧困・紛争など、世界で起きている課題に取り組もうとする人 など

※ 子どもにはそれぞれの個性に応じた学びの仕方がある。自分の興味のあることに時間をかけて取り組むことで力を伸ばせるような子どもたちが、自分にあった学びを選べるようにすることも必要である。

## 2 第一次導入候補校の教育内容（イメージ）

高校入試の影響を受けないゆとりのある計画的・継続的な教育

生徒一人一人の個性の伸長と自立を促す  
より深い「**探究的な学び**」を実践する

### ○ 探究学習のイメージ

#### ・SSH事業実施校（明和・半田・刈谷）

大学や企業等と連携して、SSHの探究的な学びを中心に、幅広く中学校段階から取り組む。

取組例：フィールドワーク、プレ研究、課題研究、発表（ポスターセッションなど）等

#### ・国際理解コース設置校（津島）

国際理解コースで取り組んでいる国際交流活動に、中学校段階から取り組む。高等学校の学科を改編するなど、国際バカロレアの趣旨を踏まえた探究的な学びを実践した後、段階的に国際バカロレア（MYP・DP）の導入を目指す。

※MYP：11歳から16歳を対象とし、どのような言語でも可能。

D P：16歳から19歳までを対象とし、2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格が取得可能。

原則、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要があるが、一部の科目を日本語でも実施可能となった。

### ○ 教科学習のイメージ

・ 中学校段階では、少人数・習熟度別指導により、基礎基本の定着を図るとともに、中学校と関連の深い高校の学習内容に中学校段階からしっかり触れることで、より深い学びに取り組む。

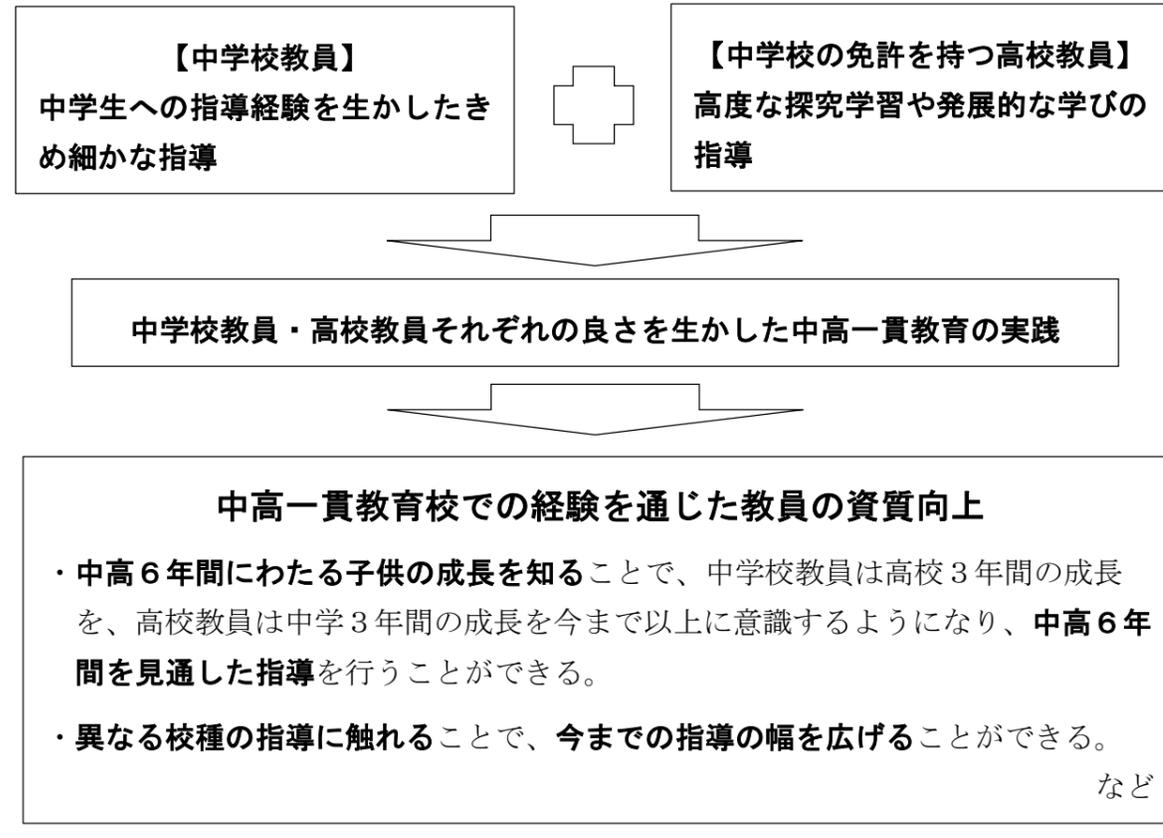
※大学受験対策をねらいとした、進度を早める先取り学習は行わない。

（ただし、探究を深めるための先取り学習は行うこともある。）

※内進生と外進生の学級の混合時期や、内進生のための類型やコース、学科の設置は、各校の教育課程を踏まえて検討。

### 3 教員配置

- 中高一貫した教育を実践するため、併設中学校には、中学校教員と中学校の免許を持つ高校教員を配置することが必要。
- 特に、開校当初は、中学生への指導に長けた中学校教員の配置が重要。



#### <併設中学校の教員確保>

- 中高交流人事の促進により、高校教員が中学生を指導できる体制を構築
- 中高一貫教育校へ勤務する教員の採用枠を設置
- 市町村立中学校から併設中学校への派遣と、欠員が生じている中学校教員の確保  
※一定年数経過後に市町村立中学校へ戻る。

### 4 入学生徒の選考方法

- 適性検査  
出題は、小学校学習指導要領の範囲内。  
思考力、判断力、表現力、課題解決力等、小学校で学習した内容を基に総合的な力を見る。
- 面接（個人又はグループ）  
中高6年間学び続ける意欲や志望動機、適性やコミュニケーション能力などを見る。
- 調査書  
小学校5年・6年生の内容を、入学者決定の際に点数化せず参考として見る。  
※調査書の内容や抽選の導入の有無は、今後検討。

### 5 併設中学校の通学区域（学区）

- 高等学校の通学区域（調整区域を含む）に準ずる。
  - ・ 明和・半田高等学校の併設中学校・・・尾張学区
  - ・ 津島高等学校の併設中学校  
津島高等学校を普通科から学科改編した場合・・・県内全域  
津島高等学校が普通科の場合・・・尾張学区
  - ・ 刈谷高等学校の併設中学校・・・三河学区  
※調整区域として、大府市・豊明市・知多郡東浦町を含む
  - ・ 明和高等学校音楽科に中高一貫教育を導入した場合・・・県内全域
- ※「県外枠」の導入の有無は、今後検討。

## 6 部会で示された懸念への対応

### (1) 中高一貫教育を導入するねらいが分かりにくい

- ・中高一貫は、あくまで手法である。  
どんな教育ニーズがあって、それに依って行く方法として中高一貫教育を導入すべき。

### (2) 受験の低年齢化や過熱化が心配

- ・大学受験対策を柱とした進路優先の中高一貫は、公立ではふさわしくない。
- ・保護者は、第一次導入校を大学受験の実績で判断するので、探究学習を重視することをきちんと周知すべき。
- ・新たな狭き門が出て、受験が激化し、低年齢化するのではないか。
- ・とにかく早く公表して、子どもや親が、情報を基に学校を選択できるようにすべき。
- ・保護者から問合せがあるので、適性検査の在り方は早く公表してもらいたい。

### (3) 併設中学校への教員配置が心配

- ・教員配置を十分拡充した上で、小中学校教員が関わり、より良い教育となるようにすべき。
- ・高校教員が中学校への交流を希望することがほとんどない。
- ・成績処理の時期が重なるので、技能教科の兼務は賛成できない。

### <導入のねらいの明確化>

- チェンジ・メーカーとして、これからの愛知・日本・世界を切り拓き、支える人材を育成する。

### <導入のねらい・選考方法の周知>

- 大学受験準備に偏らないことや、探究学習の重要性、入学生徒の選考方法を、出来る限り早い段階から随時、保護者や児童に周知する。  
※適性検査のサンプルは 2023 年度に公表。
- 適性検査は、小学校の学習内容を基にした検査とする。
- 調査書は、参考とする。

### <教員の配置>

- 中学校教員と中学校の免許を持つ高校教員を配置。
- 中高交流人事の促進。
- 中高一貫校に勤務する教員の別枠採用。

# 第一次導入候補校の導入の可否、及び第二次以降の導入候補校選定の方向性について（案）

## 1 第一次導入候補校の導入の可否について

第3回中高一貫教育導入検討部会において、第一次導入候補校へ導入する方向で概ね理解が得られたことから、第一次導入候補校4校へ、2025年4月に、併設型中高一貫教育を導入する。

地区	導入校	併設中学校 1学年の学級数
名古屋	明和高等学校	2学級
尾張	津島高等学校	2学級
	半田高等学校	2学級
三河	刈谷高等学校	2学級

※明和高等学校音楽科へ少人数の中高一貫教育を導入する。

## 2 第二次以降の導入候補校選定の方向性について

(1) 第一次導入候補校と同様の教育内容の方向性を目指す高等学校に対し、地域バランスを考慮して追加導入する。

＜導入候補例＞

- ・SSH実施校
- ・グローバル関係で探究学習を重視する学校 等

(2) 地域課題に対応した中高一貫教育の導入を検討する。

＜導入候補例＞

- ・地域連携を一層進める中高一貫校（併設型・連携型）
- ・不登校や外国にルーツのある子などが6年間学べる中高一貫校 等

## 3 今後のスケジュールについて

年月日	検討内容
2022年 8月～ 10月	○「中高一貫教育導入検討部会」による検討（3回程度） （主な検討内容） ・第一次導入校の詳細な内容について ・第二次以降の導入候補校について ・「中高一貫教育導入方針（第二次以降導入候補校含む）（案）」の取りまとめ
10月下旬 ～11月上旬	○第3回「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」（親会議） ・「中高一貫教育導入方針（第二次以降導入候補校含む）」の検討
11月～ 12月	○「中高一貫教育導入方針（案）」パブリック・コメントの実施 ○「中高一貫教育導入方針（第二次以降導入候補校含む）」決定・公表

○ 第一次導入校の入学生徒の選考方法（適性検査・面接・調査書）、導入のねらいや教育内容については、市町村教育委員会や県立高校などの**教育実務者によるワーキンググループ**を設け、具体的な検討を進める。（2022年9月～（予定））  
※ワーキンググループの枠組は、第4回中高一貫教育導入検討部会（8月中旬予定）で検討。

4 第一次導入校の具体化に向けて検討するワーキンググループの設置について  
(イメージ)

県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会（親会議）

中高一貫教育導入検討部会（第4回以降）

第二次以降導入候補校の  
方向性

第一次導入校の  
具体的な枠組

第一次導入校ワーキンググループ（2022年9月～）

第3回部会の事務局案を踏まえ、4校共通の枠組を具体的に検討する。

<検討内容>

○中高一貫教育導入のねらい、教育内容

- ・導入のねらいと教育内容の整合性について
- ・中高一貫校と、中高一貫校以外の学校との関係性について
- ・先取り、少人数・習熟度別指導について 等

○教員配置

- ・教員構成をどうするか（副校長・主任・養護教諭等）
- ・中学校教員と高校教員の配置構成をどうするか 等

○入学者の決定方法

- ・適性検査・面接の在り方をどうするか
- ・調査書の扱いや内容をどうするか
- ・抽選を導入するのか 等

○併設中学校の通学区域

- ・県外枠を導入するのか 等

※その他、給食・部活動など  
必要に応じて検討

<委員構成>

- ・第一次導入校関係者
- ・第一次導入校市町村教育委員会関係者
- ・総合教育センター所員
- ・教育委員会事務局関係者 等

○教育課程・内進生と外進生の混合  
時期  
導入校ごとに、各校の特色を踏ま  
えて検討

○具体的な教員配置

県教育委員会、教育事務所、市町村教育  
委員会等の関係者で個別調整

○中高一貫校勤務の採用枠

県教育委員会で検討